第5回 Windowsを使う

- ちょっとだけC言語による初級プログラミング (3)
 - ■二次元配列
- Windowsを使う
 - Windows環境の用意
 - ■起動方法
 - ワードプロセッサー
 - ■日本語
 - 表計算ソフト



二次元配列の使い方

```
# include <stdio.h>
# include <math.h>
main()
  int a[10][10];
  int i, j;
  for (i = 1; i < 10; i++)
     for (j = 1; j < 10; j++)
       a[i][j] = i * j;
  for (i = 1; i < 10; i++)
      for (j = 1; j < 10; j++)
        printf (" %3d",a[i][j]);
      printf("\forall n");
```

標準的な関数を利用するとの宣言標準的な数学関数を利用するとの宣言

これから始まる

整数型の二次元配列aの宣言 整数型の変数のi,jの宣言

iが1から10未満まで1を加えながら繰り返せ jが1から10未満まで1を加えながら繰り返せ a[i][j]に i*jの値を代入

iが1から10未満まで1を加えながら繰り返せ

jが1から10未満まで1を加えながら繰り返せ a[i][j]を表示 改行する

終わり

Windows環境の用意

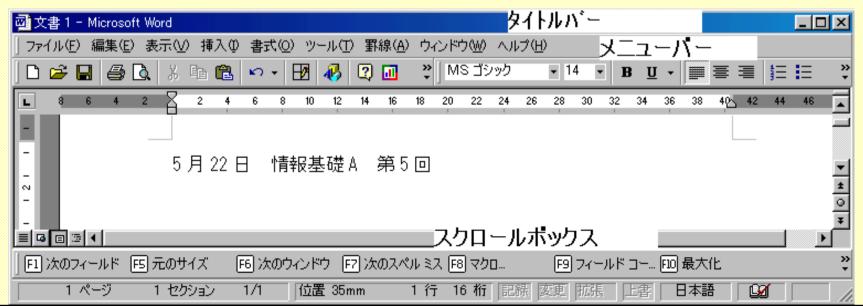
- Windowsの種類(version)
 - Windows (個人用)...,95, 98, 98SE, Me
 - WindowsNT (主にサーバー)..., 4.0, 2000
 - WindowsXP(両者の統合)
- ハードウェア
 - CPU:ペンティアム(Pentium)II, III, 4; セレロン(celeron)
 K6, Athron, Duron,.....
 クロック:数値が高いほど早い
 - RAM: 通称メモリー、Windowsは64,NTは128,XPは256 Mbyteで快適。
 - HD:ハードディスク、数Gbyteは最低欲しい。

起動方法(テキスト P.139~)

- 必要に応じてログイン(NTでは必ず必要)
- ソフトの起動
 - デスクトップにあるアイコンをダブルクリック
 - スタートボタンをおすと出てくるスタートメニューから選ぶスタートメニューは階層化されている場合もあり。
 - タスクバーのアイコンをクリックする。
 - ソフト本体のアイコンを直接ダブルクリックする。
- 終了方法
 - スタートボタンから「シャットダウン」を選択。
 - 状況に応じて、「コンピュータをシャットダウンする」や再起動、 ログオフを選択

ワードプロセッサー

- 起動は、スタートメニューからMicrosoft Wordをクリック
- 終了は、左上のメニューバーからファイル(F)を選び、 さらに終了(X)を選ぶ。(必要に応じてファイルを保存する。)
- タイトルバー、メニューバー、サイズ変更用ボタン
- ウィンドウの大きさ変更: ウィンドウの端または角をつまみ移動
- ウィンドウの移動:タイトルバーを押したまま移動
- スクロール:表示されていない部分はスクロールボックスをつまんで移動
- 文字は、ウィンドウのカーソルの手前に入力される。



日本語入力モード

- 日本語入力(p.144~)

 - 半角/全角を押す→ON,OFFの切り替え







■ ひらがなモード、全角カタカナ、全角英数、半角カタカナ、半角英数



■ ローマ字入力



かな入力



日本語入力方法

- ひらがな:入力後Enter
- 漢字交じり:適当な区切りまでローマ字で入力
 - 変換する(変換キーまたはスペースキーを押す)。
 - 次の候補はさらに変換操作を続ける。
 - 適切なものを表示してEnter(あるいは次の入力)を行う。
 - **文節の移動は←→キー**
 - 文節の区切りが不適切な場合は、Shift+←またはShift+ →で
 - 変換前の修正は← →
 - 変換後に文字列を修正する時はEsc(取り消しはEscを2or3回押す)
 - 確定後の修正は、範囲を選択して変換操作を行う。

カタカナ

- 変換操作でカタカナになるのもある。
- カタカナにならないのは変換操作後に、F7(全角)、F8(半角)を押す
- 英数字:
 - F9(全角)、F10(半角)に変換。押しつづけると大文字・小文字が変わる。
 - 英文を打つときは、日本語入力をオフにする(半角/全角キーを押す)

編集

- 削除: Deleteはカーソルの右側、Backspaceは左側を消す。
- 選択:
 - 任意:選択範囲をドラッグする。
 - 単語:単語内の適当な位置でダブルクリック
 - 文:Ctrlを押しながらダブルクリック
- 移動:
 - ドラッグで選択した後、ドロップする。(ドラッグ&ドロップ)
- コピー(一時保管場所に保管):範囲を選択し下のいずれかの操作。
 - 編集メニューからコピー(C)、ツールバーで ® 、Ctrl+C
- カット(コピーと同様だが、もとのものは消える)
 - 編集メニューから切り取り(T)、ツールバーで 協園 Ctrl+X
- ペースト(一時保管場所の内容を貼り付ける)
 - 編集メニューから貼り付け(P)、ツールバーで ® 、Ctrl+V

文書の操作

- 保存
 - ファイルメニューから上書き保存(S)、または (国) 書いている途中でもこの操作を行うと良い。
 - 名前を変えて保存する:ファイルメニューから 名前を付けて保存(A)
- 文書を開く
 - ファイルメニューから 開く(O) または □
 - 最近使用:ファイルメニューあるいはスタート 最近使ったファイルにリスト
- 印刷する
 - ファイルメニューから印刷(P) または■●●●p.152参照
- やってみよう 自己紹介の文など(なんでも良い)を作成し、保存する。

表計算ソフトを使ってみよう

- 大切な概念
 - セル:数字データか文字データが入る。
 - 列(A,B,C,...)と行(1,2,3....)で指定 例:B2
 - オートフィル:連続したセルの値を自動入力
 - 1,2,...⇒1,2,3,4....と解釈
 - 1月,....⇒1月,2月,3月,4月....と解釈
 - 数式:セルの数字データを使える。
 - ex. = B2 * B3 は B2のセルのデータ * B3セルのデータ
 - 数式でのセルの指定の仕方
 - 相対参照:参照するセルが上下左右の相対的な位置で
 - 絶対参照:参照するセルが絶対的な位置
 - 複合参照:上の二つの組み合わせ
 - 関数:ある計算を行う数式、セルを指定すると値を 計算
 - ex. =average(B3:C7) : B3とC7で指定されるブロックの 平均

EXCELでの計算例

九九の表を作ってみよう

		9
	Α	
1	九九の計	- 4
2 3		
3	1	
4	2	
4 5 6 7		
6		
7		
8		
8 9		
10		
11		

	Α		
1	九九の計	3	
2 3			
	1		
4 5 6	2		
5	2 3		
6	4		
7	5		
8	4 5 6 7		
9	7		
10	8		
11	9		
L			

フィルハンドル(■)にマウスポインタを

複合参照をうまく使えば楽

1 = B\$2*\$A3

🔣 Microsoft Excel – Book1

九九の計算

▼ × ✓ = =B\$2*\$A3

+になったらドラッグする(オートフィル)。

平均を求めてみよう

	Α	В
1		
2	58	
3	79	
4	45	
5	78	
6	67	
7	=average(A2:A6)	